

●里山の会 今年桂川に竹蛇籠設置 11月12日

今年の竹蛇籠作りは桂川での6本と京都大学宇治川防災研究所のオープンラボラトリーで9本の15本を作り上げる計画です。11月12日には保津川漁協の皆さんや京の川の恵みを生かす会の皆さん、精華高校の方々と力を合わせて製作設置をいたしました。続いて京都大学の防災研究所のオープンラボラトリーの玄関前に中聖牛を作り上げます。これは世界各地から訪れてくる皆さんにご覧になっていただくことを目的にしています。ここは川の水が増水しない公園なので、かなりの期間、雄姿が継続されることとなります。また淀川堤防右岸からも歩行者の目にとまり、アレなぁに？と疑問を抱き続けていただくこととなります。そのためには何よりも均一な材料で美しく作り上げようとして森島さん達が手作業で竹筋骨を生成いただきました。11月26日には4mもの1本と最も製作に苦勞する底辺部を12本作り上げていただきました。27日には底辺部の6本と4mもの2本を製作して、底辺部分の18本全部ができて、後は編み上げを残すところまで到達していただきました。次回は12月3日(土)10時開始で作業が始められることとなります。残り作業もあとわずかになってきましたので、関心をお持ちの皆さんには是非ともご参加下さることを強く呼びかけるものです。学び合える数少ない機会ですので、こぞってお越しいただきますようお願いいたします。

11月28日
凡 語

紅葉を楽しむ観光客でにぎわう嵐山(京都市右京・西京区)の渡月橋から1.5ほど下流の桂川左岸近くに、6本の「竹蛇籠」が設置されている▼割った真竹を亀甲形の網目に編んで石を詰め込んだもので、河川改修や護岸の補強などに用いられてきた伝統的な工法のひとつである。竹はいずれ朽ちて自然に返るので、環境にもやさしい▼桂川の竹蛇籠は長さ5.5m、直径45cmの円筒形。2本ずつ並べて流れと平行に3カ所に置かれている。淀川流域の自然環境の改善に取り組む市民団体と地元の保津川漁業協同組合が、さまざまな生物がすむ「漁礁」にしようと企画した▼水中に沈められた蛇籠には小さな石の隙間がたくさんあり、オイカワ(ハエ)、カワヨシノボリ(ゴリ)、テナガエビなどの生息場、隠れ家になる。サギやカワウ、外来魚といった捕食者たちに襲われても、逃げ込むことができる▼籠に石を入れるのはたいへんな重労働である。今月中旬にあった作業には、団体や漁協のメンバーのほか、大学生や高校生も加わって汗を流した▼来夏には竹蛇籠とその周辺にどのような生き物がすみ着いたかを調査し、観察会を開くという。漁協はウナギを放流することも計画している。観光だけではなく、恵み豊かな川を楽しむ、そんな場所になってほしい。



●同志社大学生4名がすごい地域貢献 里山農園で白土山への周遊路づくりに大奮闘いただきました。

11月27日の朝から4名の皆さんが里山農園に集合いただき手作業で雑草の刈取りを行っていただきました。この日はまさに仕事日和、最高の天気でした。約600mほどの予定地を確認いただいて、9号地から山奥に進みました。思ったほど前進した出来栄ではありませんでしたが、生まれて初めて草刈り鎌を使っての作業に挑んでいただき貴重な体験を楽しんでくれました。同志社大学のボランティア支援室は2016年に建学の精神「良心教育」から自主性、社会性、奉仕の精神を育むとともに、市民社会の一員としての自覚を促すことを目的に取り組まれているものです。



●昨年が続いて、同志社大学サッカー部が里山の会へのボランティア活動に参加いただきます。作業は白土山までの周遊通路整備作業です。そのための現地下見に女子サッカー部の川田花さんが11月24日に来所頂きました。大村理事長が案内しました。これは今年里山の会が里山農園から白土山への通路を開通させようと計画しているルートです。出来上がると里山農園の魅力が大きく成長して終日、リクレーションを楽しみ豊かな自然とお茶だけでなく普賢寺のかつての地域を支えてきた歴史を学べるツールとしての役割を果たしてくれるものです。



同志社大学体育会サッカー部
ボランティア活動inやましろ里山の会

●12月9、10日 白土山への周遊路作りに延べ20人参加予定

先日現地下見に来られた川田花さんによりますと女子サッカー部員さんも数人がご参加いただけるとのこと。慣れない作業になりますが、一杯作業に参加していただければと思います。頑張ってください皆さんの作業に感謝しながら歓迎させていただきたいと思っています。少しでもお手伝いにご参加下さい。

やましろ里山の会と同大サッカー部

2021年12月7日(水)と8日(木)の2日間、やましろ里山の会のみならず共に、同志社大学体育会サッカー部は大河里山農園でボランティア活動を行いました。約40年間放置されて雑草が鬱積していた急斜面の丸山を、手回りで上記写真のようにきれいにすることができました。冷たい雨天の中での作業となりましたが、会員の方々から貴重なお話を伺える良い経験となりました。

丸山農園の
寝ていたいた鎌を使用し、より高い草を刈り取りました。

NHKの取材
今回のボランティア活動について、NHKの全国ニュースで取り上げいただきました。

農園の大蛇
塚で再び湧き出した水を収穫させていただき、持ち帰って美味しくいただきました！

天皇杯出場
本学が誇る大蛇を優勝し、全国大会に出場。11の大学がグランプリ出場。

皇后杯京都府優勝
2021年度女子一山優勝し、京都府大会で、優勝も果たしました。

地域貢献委員会
地域の地域貢献委員会は、地域でのボランティア活動を行っています。

●白土山への周遊路作りに全力 昨年は12月8、9日の午後から里山農園に10人の若者が集合して雨が降る中、草刈り鎌で丸山

(里山農園の深部的な小山)の草刈りを2日間かかって丸刈りをしていただきました。おかげでその後5月に急斜面の平坦化が進み、ハンマーモアや仮払い機で除草作業が可能になりました。農園の見栄えが随分立派になりました。2022年度では白土山の奥にある白土(台所の洗剤とさてれた)を掘削してできた洞穴までの周遊路を再現したいと計画してきました。そして全長600mのガイドロープを張るところまで準備ができて、通行可能な道幅整備(幅1m程度の確保)を行うところまで来ています。里山の会は大喜びで、お昼の食事に里山カレーを用意しようと考えています。去年は午後1時集合でしたが、今年は朝10時の集合をお願いしていますので昼食を用意しましょうと提案しています。奥さん方に呼び掛けて寒い冬には温かい食事を提供いただければとお願いしています。少なくとも温かいご飯が用意されるものと思っています。食事作りのお手伝いをお願いできる方のご参加を期待しています。

●小川芳也さんの松江通信 No. 9

今週は先週までの物語から離れて「八俣の大蛇の形」について説明を加えたいと思います。その正体は、「斐伊川でたびたび発生していた洪水」だと言い伝えられています。まず、川を流れる水は、私たちの飲み水、食料となる農作物・魚介類を育てるために欠くことができない資源であったことから神聖なものとされ、水の神様として「蛇」をその象徴にしていたのではないのでしょうか。一つの身体に頭が八つ、尻尾が八つの「八」には数が多い・たくさんなどの意味があるので多くの箇所から斐伊川に水が流入したり斐伊川から溢れたりしていることを、また、その身体の大きさは八つの谷、八つの峰を渡っては上流から下流までたくさんの水(洪水)が絶え間なく続いていることを表現したのではないのでしょうか。更に、洪水のときに流されているヒノキやスギなどが水面に見えるので背中に生えているように、土砂などを巻き上げながら流下している洪水時の濁った水は血にまみれてただれているように見えたものと推察します。

この続きは次回に・・・